



シリーズ名：全日本フォーミュラ・ニッポン第3戦

大会名:2010年全日本選手権フォーミュラ・ニッポン第3戦 富士スピードウェイ

距離:4.563km×44周

予選:7月17日(土) (晴れ 観衆：6,900人) (主催者発表)

決勝:7月18日(日) (晴れ 観衆：19,000人) (主催者発表)

MOTUL TEAM 無限、10位完走でレースを終える

7月17日(土)～18日(日)、全日本選手権 フォーミュラ・ニッポン第3戦が、静岡県・富士スピードウェイで開催された。前回の第2戦から2ヶ月のインターバルを経て、開催となったこの大会。今回は日本屈指のハイスピードサーキットでの開催。1.5kmのストレートを有し最高速度は300kmを超え、1コーナーには急減速で進入。スリップストリームの攻防や、ブレーキング勝負が見所となる独特のコースレイアウト。開幕前、3月25日～26日にはテストは行っているものの、多くの走行時間は雨にたたられ、我がMOTUL TEAM 無限はセット出しまで至らぬまま、不完全燃焼のままテストを終えている。チームはほとんどデータが無い状態ではあるが、可能な限りの準備を施し、サーキットに乗り込んだ。

公式練習走行

7月17日(土)

フリー走行1 (9:00～9:45)

今大会は今までの大会と異なり、7月18日(日)のワンデーで予選・決勝を行う為、この日はフリー走行のみの開催となった。しかしトヨタ自動車主催の「わくわくトヨタ」が開催されているため、朝早くから多くの観衆が来場された。

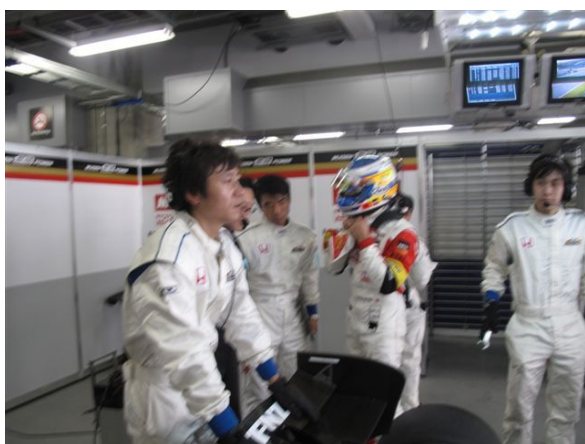
9:00～9:45に行われた第一回目の公式フリー走行。朝のうちは曇天模様であったが、開始5分前にサーキットに厳しい日差しが照りつけ、温度は30度近くまで上昇。週の前半のぐずついた天気の様相は微塵もなく、梅雨明けのような真夏日となった。多数のデータを持つライバルとの差を埋めるために、富士スピードウェイのスタンダードなセットから走行を開始した。3周毎にピットインを行い、車高、ダンパー等のセッティングを中心に行い、スタッフが短い時間を使ってマシンを進化させる。手塚監督と井出選手が息を合わせ、セットを進め、結局このセッションは4回のピットインを行い、ベス



M-TEC Press Information

トタイム 1' 28.126 に留った。井出選手はオーバーステアに悩まされ、不完全燃焼のまま 13 番手でセッションを終えた。

P	No	Driver	Team	Engine	Time	Delay	Gap	km/h
1	8	石浦 宏明	Team LeMans	TOYOTA RV8K	1'26.747	-	-	189.36
2	36	アントニ・ロッチェー	PETRONAS TEAM TOM'S	TOYOTA RV8K	1'27.066	0.319	0.319	188.67
3	1	ロイック・デュバル	DoCoMo TEAM DANDELION RACING	HONDA HR10E	1'27.128	0.381	0.062	188.54
13	16	井出 有治	MOTUL TEAM 無限	HONDA HR10E	1'28.126	1.379	0.349	186.4



フリー走行 2 (13:50~14:50)

13:50 から開始された公式フリー走行 2 が 60 分間行われた。午前のフリー走行で出たセットの粗を出し、再度、セッティングを行ったマシンでコースイン。更なるタイムアップを狙う。正午に梅雨明け宣言が発表され気温も 30 度を超え、厳しい日差しがサーキットを照りつける。まずはユーズドタイヤでコースイン。序盤はマシンの確認、微調整を行うため、3~4 周毎にピットインを繰り返す。序盤は 6 番手付近のタイムを刻む。16 周目にピットイン。他チームに先駆け、ここでニュータイヤを履き上位を目指す。19 周目にベストタイム 1' 28.240 をたたき出し、11 位に進出する。しかしフィニッシュ直前、ライバルチームのタイムアップもあり、トップと 1.325 秒差の 14 位に終わる。マシンセッティングに課題を残したまま予選に挑む結果となってしまった。チームは予選までには、戦えるマシンにする為に夜遅くまでマシン整備を行った。



M-TEC Press Information

P	No	Driver	Team	Engine	Time	Delay	Gap	km/h
1	36	アントン・ロツァレー	PETRONAS TEAM TOM'S	TOYOTA RV8K	1'26.888	-	-	189.06
2	1	ロイック・テュバル	DoCoMo TEAM DANDELION RACING	HONDA HR10E	1'27.113	0.225	0.225	188.57
3	32	小暮 卓史	NAKAJIMA RACING	HONDA HR10E	1'27.222	0.334	0.109	188.33
14	16	井出 有治	MOTUL TEAM 無限	HONDA HR10E	1'28.240	1.352	0.158	186.16



7月18日(日)

公式予選 (Q1 9:15~9:35 Q2 9:45~9:55 Q3 10:05~10:15)

昨日同様、天気は快晴。気温も朝からぐんぐん上がり、予選時間前の9:00にはすでに温度計の数値は気温29度。路面温度は41度まで上昇していた。天気予報は雨の心配は無いものの、この夏一番の暑さになることが予想されていた。

公式予選 Q1

9:15 から開始された公式予選 Q1。厳しい日差しがサーキットを照りつけ、真夏の気候のもと、開幕戦と同様のノックアウト方式で行われた。Q1で上位11台がQ2に進出することとなる。20分間で行われるQ1の開始と同時に、井出選手がニュータイヤを履き2番目にコースイン。序盤から、上位グリッドを狙う作戦を取り5周目に1'26.819を記録し、5番手に浮上。チームは更に上位グリッドを狙う為、ピットインを指示。再びニュータイヤに履き替えて走行を開始。他ライバルチームも、続々とピットインしニュータイヤに履きかえる。井出選手はタイムをなかなか上げられずに徐々にポジションを落としていたが、予選終了間近のファイナルラップ11周目に更にタイムを縮め1'26.692を記録。7番手に浮上した。この結果公式予選 Q1 突破に成功。昨日、問題となっていたマシンのリヤの挙動も安定してきたようだ。



M-TEC Press Information

7月18日 予選Q1								
P	No	Driver	Team	Engine	Time	Delay	Gap	km/h
1	32	小暮 卓史	NAKAJIMA RACING	HONDA HR10E	1'26.280	-	-	190.39
2	20	平手 晃平	Mobil 1 TEAM IMPUL	TOYOTA RV8K	1'26.292	0.012	0.012	190.36
3	36	アンドレ・ロッチェー	PETRONAS TEAM TOM'S	TOYOTA RV8K	1'26.474	0.194	0.182	189.96
7	16	井出 有治	MOTUL TEAM 無限	HONDA HR10E	1'26.692	0.412	0.034	189.48

公式予選 Q2

9:45～9:55に行われた予選 Q2。僅か 10 分で 8 番手以内のタイムを出さなくてはならない難しいセッション。マシンが一斉にコースイン。井出選手はやや後方からのコースインとなった。まずはマシンチェック。路面の状況を感じ取り 2 周目からアタックを開始。3 周目に 1' 26.411 を記録し 8 番手に進出。この記録は破られることも無くセッションを終了。今期初となる Q3 進出を決めた。このセッションはトップから 11 位までの差が 0.763 秒差と大接戦の争いとなった。

7月18日 予選Q2								
P	No	Driver	Team	Engine	Time	Delay	Gap	km/h
1	32	小暮 卓史	NAKAJIMA RACING	HONDA HR10E	1'25.841	-	-	191.36
2	8	石浦 宏明	Team LeMans	TOYOTA RV8K	1'25.937	0.096	0.096	191.15
3	20	平手 晃平	Mobil 1 TEAM IMPUL	TOYOTA RV8K	1'26.034	0.193	0.097	190.93
8	16	井出 有治	MOTUL TEAM 無限	HONDA HR10E	1'26.414	0.573	0.116	190.09

公式予選 Q3

10:05～11:15に行われた予選 Q3。足回りに若干仕様変更を施し、ユーズドタイヤで開始 3 分後にコースイン。手塚監督からは井出選手に、スリップストリームを使ってタイムを削る様指示が出る。当初からアタックは 2 周のみと決めていたので、最終の 3 周目に井出選手がアタックに入る。若干距離があるものの、トムスのマシンのスリップに付き、最高速を稼ぐ。1' 26.757 を刻み 8 番手で終えるものの、ユーズドタイヤでのこのタイムは評価すべきものであった。この結果、午後の決勝は 8 番手グリッドが決定した。



M-TEC Press Information

7月18日 予選Q3								
P	No	Driver	Team	Engine	Time	Delay	Gap	km/h
1	1	ロイック・テュハール	DoCoMo TEAM DANDELION RACING	HONDA HR10E	1'25.999	-	-	191.01
2	20	平手 晃平	Mobil 1 TEAM IMPUL	TOYOTA RV8K	1'26.035	0.036	0.036	190.93
3	32	小暮 卓史	NAKAJIMA RACING	HONDA HR10E	1'26.098	0.099	0.063	190.79
8	16	井出 有治	MOTUL TEAM 無限	HONDA HR10E	1'26.757	0.758	0.379	189.34

7月18日 予選総合結果								
P	No	Driver	Team	Engine	Q1	Q2	Q3	
1	1	ロイック・テュハール	DoCoMo TEAM DANDELION RACING	HONDA HR10E	1'26.539	1'26.285	1'25.999	
2	20	平手 晃平	Mobil 1 TEAM IMPUL	TOYOTA RV8K	1'26.292	1'26.034	1'26.035	
3	32	小暮 卓史	NAKAJIMA RACING	HONDA HR10E	1'26.280	1'25.841	1'26.098	
8	16	井出 有治	MOTUL TEAM 無限	HONDA HR10E	1'26.692	1'26.414	1'26.75	

決勝 (14:45~15:55)

決勝時刻が近づくとつれ、気温 31 度、路面温度 46 度まで上昇。路面からの照り返しにより、実際の温度以上に体感温度は暑く感じられ、過酷なレース展開が予想された。今回は距離が 200 km に設定され、今期最短距離による超スプリントレース。更にピットインやタイヤ交換の義務は無いため、チームはノーピット作戦でレースを組み立てる。他チームも同様の作戦を取るようだ。この暑さによるドライバーの体力消耗も懸念される。決勝レースは定刻どおり 14:40 にフォーメーションラップが開始される。全車グリッドに整列すると、レッドシグナルのブラックオフとともに、44 周回の決勝レースの幕が切って落とされた。ここで早くも波乱が起きる。ポールポジションの#1 ロイック選手がエンジンストール、3 番手以下のポジションからスタートしたマシンは、1 コーナーにかけ激しいポジション争いを起こし、団子状態で 1 コーナーへ。ロイック選手同様、我がチームの井出選手もスタートで失速。1 コーナーまでに 5 つポジションを下げ、下位のマシンの後塵を浴びることとなる。集団に飲み込まれた井出選手は前を走るマシンを果敢に攻めたてる。12 周目のストレートでオーバーテイクボタンを使い、前のマシンを抜こうと攻めるものの、勢いあまって 1 コーナーでコースアウト。ポジションを 1 つ下げ、12 位に後退する。しかし 17 周目、#29 井口選手をダンロップコーナーで鮮やかにパス。11 位にポジションを上げる。更にペースの上がない#10 塚越選手に対

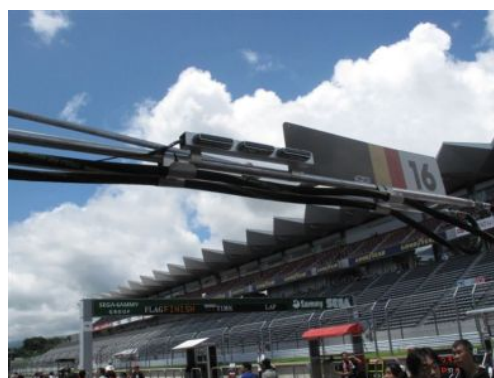


M-TEC Press Information

し、周回を重ねるごとに差を縮める。29 周目にストレートでオーバーテイクボタンを上手いタイミングで使用し 10 位にポジションを上げる。1 分 30 秒台後半から 31 秒台前半で綺麗にラップタイムを揃えて快走を続ける井出選手。気温も高いことから、手塚監督から井出選手に激励の無線が飛ぶ。その後も安定したタイムを刻むものの、前のマシンを抜くに至らず 10 位でチェッカーを受けた。

フォーミュラ・ニッポン第 4 戦の舞台は、ホンダ陣営のホームコース、ツインリンクもてぎ。8 月 8 日決勝で行われます。皆様の応援宜しくお願いします。

7月18 日決勝						
P	No	Driver	Team	Engine	Time	TOPTIME /BEHIND
1	20	平手 晃平	Mobil 1 TEAM IMPUL	TOYOTA RV8K	44	1:06'05.040
2	36	アンドレ・ロッター	PETRONAS TEAM TOM'S	TOYOTA RV8K	44	12.793
3	19	ジョアオ・マテオ・オリベイラ	Mobil 1 TEAM IMPUL	TOYOTA RV8K	44	14.89
10	16	井出 有治	MOTUL TEAM 無限	HONDA HR10E	44	53.606



M-TEC Press Information



井出有治選手コメント

今回、土曜日のフリー走行でクルマのセッティングが出ずに辛い走行が続いたが、スタッフ達が夜遅くまでマシンを修正してくれたので、予選の走り出しはとても良く、Q3まで進出できた。やっといい流れになり、みんなと同じレースが出来るところまで来たといった感じです。決勝スタートで、トラブルなのか加速が上手く乗せられずにポジションを大きく下げてしまい、また前を追いかけるのにオーバーテイクを試みるも、結果的にポジション下げてしまった。しかしラップタイムはコンスタントに良いタイムを刻むことが出来ました。次は頑張ります。応援宜しくお願いします。



勝間田エントラント代表コメント

今回のレースで、ドライバーに、予選での戦略やタイヤの使い方が把握できたのと、Q3に残れたことが大きな成果であった。決勝は悔やまれる点もあるが、運もあるので次に期待したい。もてぎはホンダのホームコースなので上位に進出してほしい。



手塚監督コメント

今回、第一関門である予選のノックダウンQ3まで残れたことが最大の成果であり、自分も嬉しかったです。これで次のもてぎにいっそう励みとなった。決勝のスタートで出遅れたことは大変悔やまれるが、ドライバーが1コーナーで飛び出すほど、最高速を叩き出し、果敢に攻めてくれたので、見ごたえのあるレースであった。もてぎはセッティングに良い感触を得ているのでとても楽しみです。期待してください。

